がんとむきあう会

代表：西村詠子（認定NPO法人がんとむきあう会）

１．これまでの取組内容
２．具体的な成果
３．今後も継続して実施する必要性
４．今後の取組と期待される効果

１．これまでの取組内容

- 私たちの活動は、平成22年マギーズセンターから「闘病生活において自分自身を取り戻すことができる」支援を学び、「金沢にもこのような施設がほしい」と医療者が集まり活動が始まった。

- 平成28年度には、多数の支援者のおかげで、金沢石引町にいつでも誰でも訪れることのできる“場”の常設化 “元ちゃんハウス”を完成することができた。

- 「病人ではなく一人のひととして」支える連携と支援は、患者さんのみならず家族、友人、医療保健従事者など、がんに関わる全ての人たちのQOL向上につながると考えた。
- 患者さんや家族は、自分たちの町の開かれた“場”において、治療や療養に伴う不安を一人で抱え込まず、本来の自分を取り戻すきっかけを得ることができる。一方、医療従事者は、病院を離れて、援助者としての上下関係ではなく、人として横並びの関係で接し、患者さんが何に困っているか、何を求めているかなどを見極める力が研鑽できる。

2．具体的な成果

＜研修会・セミナー、県民公開講座等の開催＞

年度	開催回数	参加人数
H25	16	約290人
H26	20	約170人
H27	26	約700人
H28	15	約240人
H29	12	約430人
H30	12	約480人
H31	5	約160人
R2	9	約130人
R3	5	約170人

＜その他＞

2017年第31回日本がん看護学術集会、
2017年第5回日本在宅栄養管理学会、
2017年第55回日本癌治療学会2018年**第56回日本癌治療学会**
2019年**第57回日本癌治療学会**にメンバーが取り組み発表

＜金沢1日マギーの日＞

いのちについて考え、患者さんと家族を「病人ではなく一人のひととして」支えられる支援を考えるため、専門知識を有する外部講師を招き、ヒューマンサポートやがんとの共生に関わる講演会や座談会を開催

＜ナイト元ちゃんハウス＞

がんとともに暮らす際に必要なお金や仕事との上手な付き合い方や仕事と治療の両立を考える場を提供

＜元ちゃん保健室＞

がん以外の疾患や生活等の不安・悩みも相談でき、がん患者さんが初めに気軽に相談できる場を提供

＜まなびの教室＞

がんに詳しい医療従事者が、がん医療の知識を分かりやすく説明し、参加者の身近な疑問にも答える

【患者さんやその家族】
　治療や療養に伴う不安や悩みを医療従事者等に気軽に相談できることで、不安を一人で抱え込まず、本来の自分を取り戻すきっかけとなる
【医療従事者】
　援助者という上下関係ではない横並びの経験値が得られ、高度・専門医療人材として成長できる

３．今後も継続して実施する必要性

- 現在コロナ禍でがんに詳しい看護師（専門看護師、認定看護師）や医療従事者が病院で特に外来患者の話を傾聴する時間が少なくなっている。

⇒がんとむきあう会での活動によって修練を積み、能力や技術を高める一助になると思われる。具体的には、令和4年度はWEBと対面のハイブリッドでがん詳しい看護師とがん患者との対話の時間（特別な火曜日　毎週第4火曜日13時から14時）を実施。

- がんに詳しい専門看護師・認定看護師の継続の単位取得のための実践活動の業績にもつながっている。

４．今後の取組と期待される効果

・社会の高齢化や病院の機能分化、医療の進歩にともない、がんの治療が通院治療にシフトしており、多くのがん体験者が地域で生活している。しかしながら、約4割が再発や転移などで再び治療が必要な状態でもある。

・地域の特性を生かし、全国の当事者や事業所など関係者とネットワークを構築しながら、引き続き生活面を支援できる高度・専門医療人材養成を元ちゃんハウスの“場” で行い、また専門医療人同士の交流の“場”、また医療系学生の交流の“場”にもなっていきたい。

・がんとむきあう会には県のピアサポーター養成講座以外に、NPO法人ミーネットや、認定NPO法人キャンサーネットジャパンで研修をうけたピアサポーターがおり、地域でのピアサポーター育成や連携も行っていきたい。

・がんとむきあう会にボランティアに来ていた看護師が利用者と対話を繰り返す中で、さらなる専門性の必要を感じ、現在大学院に進み、がん専門看護師取得に動いており、その研究支援も現在行っている。

以上より、 会の継続、“場”の継続を取り組んでいきたい。